

外国語活動学習指導案

京都市立桃陽総合支援学校

日	時：平成 24 年 10 月 18 日（木）第 5 校時（13 時 30 分～14 時 15 分）
学	年：府立分教室 小学部 5・6 年 本校 小学部 5・6 年
授業場所	：府立分教室 小学部教室 本校 小学部 6 年教室

1. 単元名

「友達に自分の部屋の場所を案内しよう」

（"Hi, Friends!2" Lesson4 参照）

2. 単元目標

- ・目的地への行き方を尋ね合う表現に慣れ親しみ、進んで道案内しようとする。
- ・日本語と英語とでは、建物の表し方が違うことや、人に頼む時の気持ちのよい言い方に気付く。

3. 児童の実態

児童は、夏休みまではそれぞれの教室で外国語活動に取り組んできた。少人数であることを活かし、発表する場面を増やしたり TPC で Hi!friends の画面を操作したりすることで、意欲的に学習に取り組んできた。夏休み明けから、学習や英語劇の練習で本校との交流授業を開始した。少人数では取り組めなかった活動ができた、ゲームを通して話しかけたり相手のことを理解したりすることで、英語によるコミュニケーションを楽しんでいるようになってきた。

TV 会議システムを活用し、より相手を意識したコミュニケーション活動に取り組むことで外国語に親しみ、伝え合おうとする態度を育てていきたい。

4. 単元について

本単元は、方向や動きを表す英語の言語表現に慣れ親しみ、相手に尋ねたり案内したりする時に気持ちの良いやり取りの仕方に気付くことが目標である。児童の実態やこれまでの外国語活動の様子から、絵カードを使ったゲームの活動時間を十分に設定することが有効であると考えた。そこで、単元の最後に「自分の部屋（病室か教室）を友達に案内しよう。」という活動を設定した。小児医療センター内の地図と本校 1 階校舎の地図を用意し、分教室を知らない本校の児童に自分の病室や教室を意欲的に伝えることを目標として活動したいと考えている。

そのために、まず、ゲームを通して建物の英語表現を繰り返し聞き、日本語表現との違いや共通点に気付けるようにしたい。その上で、方向や動きの表現を聞きとり、声と動きで表現できるようにしたい。一度道案内をした後、Go straight. や Turn right. だけで会話すると日本語表現ではどうなるのか、T1・T2 教師で会話をしてみせることで、Excuse me. や Thank you. という表現が必要であることに気付けるようにしたい。互いに相手には分からない自分の病室や教室の場所を案内することで、活動への意欲や目的意識がもてるようにしたい。また、毎時の振り返りについてはコラボノートを活用し、その時間に感じたことや気付きを同じ画面上で共有して互いに確認することで、次時への意欲につなげていきたいと考える。

5. ICT を活用した指導について

府立分教室での TV 会議システムの主な活用目的としては、

- ① 1 人や少人数では解決しにくい学習問題を解決できるようにしたり、ゲーム等やり取りの必要な、集団でしかできない活動をしたることで、一体感が得られ学習の意欲を高める。
- ② 仲間の存在を感じたり共に学習したりすることで孤独感や不安を軽減し、学習意欲を高める。
- ③ 病院内の決まりにより、分教室や病室では取り組めない理科の実験・観察等を、間接的に体験して理解を深める。
- ④ 児童や保護者の希望により、前籍校との交流を通して復学への意欲を高める。

といった点が挙げられる。本単元では①と②の達成を目標としている。そこで、2つの手立てを考えた。1つ目は、TV 会議での学習活動を活発にするために、事前に自分のことを相手に伝えたいという気持ちが高まるような活動を計画することである。2つ目は、できるだけ全員が同時に参加できる活動や発表の場を授業の中に設定することである。これらの手立てによって、分教室・本校それぞれの児童が英語での表現やコミュニケーションに楽しみながら慣れ親しむことができると考える。

6. 単元の評価基準

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度 【関・意・態】

- ・進んで目的地への行き方を尋ねたり案内したりしようとしている。

(2) 外国語への慣れ親しみ 【慣れ親しみ】

- ・建物や方向、動きを表す表現に慣れ親しみ、目的地への行き方を尋ねたり答えたりしている。

(3) 言語や文化に関する気付き 【気付き】

- ・日本語と英語とでは、建物の表し方が違うことや、人に何かを頼む時やそれに答える時の気持ちのよいやり取りの仕方に気付いている。

7. 単元計画（全4時間）

時	目標と主な活動 【主な使用機器】	評価の重点			使用表現	
		関	慣	気	表現	語彙
1	建物の言い表し方を聞き、日本語と英語との共通点や違いに気付く。 ・挨拶の仕方を確かめる。 ・P. 14, 15のおはじきゲームをする。 【デジタル黒板・テレビ会議システム・コラボノート・TPC】			○	What's this? Where is ~? Turn right. Turn left. Go straight. Stop. Excuse me. Thank you.	school police station flower shop restaurant hospital post office fire station department store station park super market convenience store bookstore room classroom staff room health room Japanese-style room nurse station play room bath room
2 (本時)	建物の言い表し方に慣れ親しむ。 ・What's this?ゲームをする。 【デジタル黒板・テレビ会議システム・コラボノート・TPC】		○			
3	目的地への行き方を尋ねたり伝えたりする。 ・サイモンセズゲームをする。		○			
4	道案内に使う言葉を選んで自分の部屋を案内する。 ・分教室・本校の友達に、自分の部屋の場所を案内しよう。 【デジタル黒板・テレビ会議システム・コラボノート・TPC】	○				

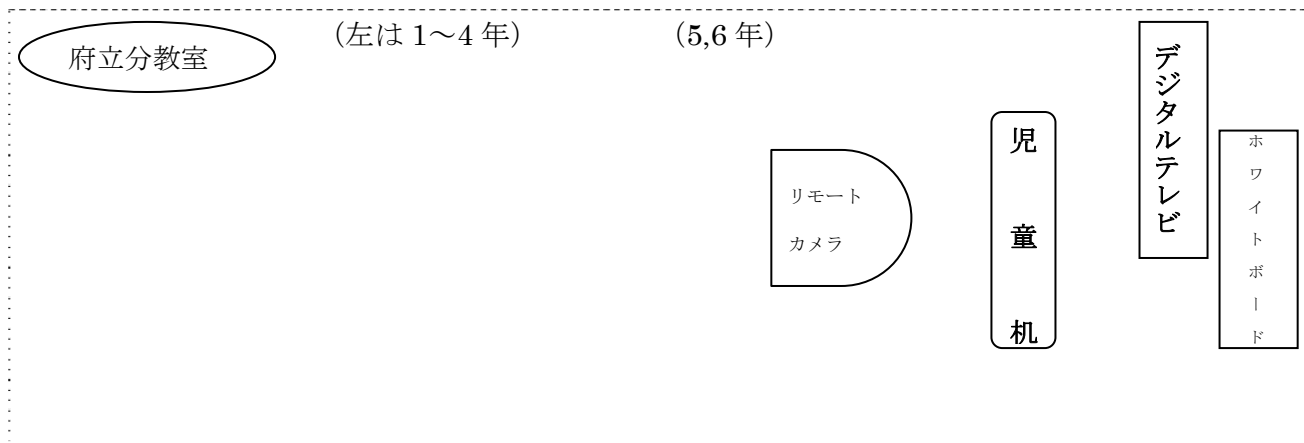
8. 本時の活動

(1) 目標 建物の言い表し方に慣れ親しみ、友達とやり取りをする。

(2) 展開

学習活動	ICTによる支援 (活用者)	・指導上の留意点 ★準備物 ◎評価の視点【観点】〈評価方法〉
<p>○挨拶をする。</p> <p>・全体で挨拶をした後、個別に数名の児童の体調を聞く。</p> <p>How are you? I'm fine/happy/ tired/sleepy/hungry</p> <p>○本時のめあてを知る。</p>	<p>・リモートカメラ操作 (T2)</p>	<p>・本時で初めて交流する児童がいる場合は、各担任から紹介する。</p> <p>★表情カード (各教室で掲示)</p>
<p>ゲームの中で、建物を英語で表現しよう。</p>		
<p>○前時の建物絵カードを振り返り、リピートする。</p> <p>○What's this?ゲームをする。</p> <p>①本校と府立に分かれて交互に、絵カードを部分的に隠して相手に見せる。</p> <p>②見たいヒントの色や形を府立・本校の児童が選ぶ。(各担任で指名)</p> <p>③絵カードの数だけクイズを出し合う。</p>	<p>・リモートカメラ操作 (T2)</p>	<p>★建物絵カード</p> <p>・何度か声に出した後、個別に発言できるようにする。</p> <p>★ヒントボード</p> <p>・ヒントとなる形や色を英語で表現しやすいようにする。</p> <p>◎建物やヒントの形・色を英語で表現している。【慣】(行動観察)</p>
<p>○本時の活動を振り返る。</p> <p>・コラボノートに振り返りを書き込む。</p> <p>・書き終わったら友達の振り返りを読む。時間があれば、コメントを付ける。</p> <p>・挨拶をする。</p> <p>Good bye everyone. Good bye.</p>	<p>・TPC, コラボノート操作 (児童)</p>	<p>★コラボノートに振り返りシートを作成しておく。</p> <p>・やり取りをするという目標に対して、自分ができてうれしかったこと(ピンク)、友達のよかったところ(黄)、次の時間がんばりたいこと(青)と色分けをしてふせんに書き込むようにする。</p>

9. 配置図



10. 児童の配慮事項と支援

ホームページへは非公開とします。